

発行日 令和4年9月8日

発行者 袖ヶ浦市根形公民館

〒299-0255

袖ヶ浦市下新田 1277

TEL 0438-62-6161

ねがたびと

題字：降矢玄龍先生

夏はやっぱり

ねこまろ だね！

9年目を迎えた“ねこまろ”今では根形の夏の風物詩です。新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底し、通常版は8月1日・2日、特別版は8月20日・21日に実施しました。通常版1日目には、小学校1年生から6年生までの30名が、2日目には31名が参加しました。午前中は、夏休み中の宿題（漢字や計算ドリル、絵日記、自由工作など）を行い、午後はラダーゲッターやインドアローンボール、ジャグリングなどの体験を行いました。参加した子どもたちからは「木更津高校の人たちのジャグリングが見られて楽しかった」、「勉強に集中できて、午後のゲームもおもしろかった」、「勉強が終わった。レクが楽しかった」などの感想が寄せられました。

今回も、大学生を中心とした若者のグループ（N.O.C【ねがた.オープン.キャンパスの略】）が、企画から当日の運営、片付けまでを行い、高校生ボランティアや袖ヶ浦市レクリエーション協会、根形公民館の絵画サークル、木更津高校ジャグリング部の皆さんの協力を得ながら、ねこまろ通常版を成功させました。N.O.Cのメンバーからは「子どもたちが楽しそうにしている姿が今年も見られて良かった。また楽しいことが提供できればと思う」「今年は多くの高校生ボランティアがいてくれて助かった。ボランティアの中からN.O.Cに入ってくれる人がいたらうれしい」などの声が聞かれました。



👉 午前は静かに勉強です



👉 インドアローンボウルズに挑戦



👉 ラダーゲッターに挑戦



👉 N.O.Cと高校生ボランティア



👉 ジャグリングにも挑戦

ねこまろ 続きだよ!「特別版」

ねこまろの特別版では、1日目は小学校4年生から6年生までの11名が、2日目は9名が参加しました。1日目では竹で水鉄砲を作成し、作った水鉄砲を使って的当てゲームなどを行い、2日目はグラウンドゴルフ、インディアカのスポーツ体験を行いました。参加した子供たちからは「水鉄砲を作るのがよかった」、「楽しかったから夢中になれた。あきらめない力をもらった」と感想が寄せられました。

さて、このねこまろ特別版は、根っ子の会（根形地区住民会議）との共催事業（根形わくドキ体験）として実施しました。ねこまろは企画当初、地域の若者と子どもたちとの交流の場としていましたが、地域の大人たちが「ねこまろ応援団」として参加することで、地域の子どもから大人までが関わり、今では多世代交流の場となっています。



👉 水鉄砲で的当てゲーム



👉 グラウンドゴルフに挑戦



👉 インディアカに挑戦



第10回 ねがたファミリーコンサート



8月6日（土）袖ヶ浦市出身のヴァイオリニスト小泉百合香さんとピアニスト鈴木奈津子さん、チェリスト白神あき絵さんの3名によるアンサンブルコンサートを開催しました。このコンサートも回を重ねること10回となりました。小泉さんは（公財）千葉交響楽団の団員として、鈴木さん白神さんはフリーのプロの演奏家として幅広く活躍されています。

「ニコニコ教室（高齢者教室）」の講座生の他、11組の親子や中学生など計57名の参観者がプロの泊力ある演奏に聴き入っていました。



『情熱大陸（葉加瀬太郎）』に始まり、『鬼滅の刃より紅蓮華』、『小さな世界』、『ホールニューワールド』、『ノクターン第2番（ショパン）』、『白鳥（サン＝サーンス）』、『サウンドオブミュージックメドレー』など、アニメソングからクラシックまで全11曲を演奏。子どもから大人まで楽しめる夢のようなひと時を過ごせました。「毎年心待ちにしています。今年も素晴らしい演奏をありがとうございました」、「生の演奏を聞いて本当に素晴らしい。年に1回のコンサートが待ち遠しいです」など、講座生から大満足の声が届きました。





二十歳を祝う会(仮称)

令和5年1月8日(日)開催します

「生まれ育った郷土に感謝し、社会の一員として力強く生きる気持ちを持つ」という目標を掲げ、袖ヶ浦市二十歳を祝う会(仮称)を開催します。現在、二十歳を迎える若者を含めた実行委員で、式に向け準備を進めています。

予告!

10/29(土)

10/30(日)

根形公民館まつりを開催します!

根形公民館で日頃活動しているサークルや地域の団体、根形保育所、根形小・中学校の作品展示や発表、即売会などを行います。その他、親子陶芸・工作・油絵・テニスの体験教室などの講習会もあります。詳しくは市ホームページやチラシ等でご案内します。ぜひ、お出かけの予定に入れてください。

模擬店も出店するよ!

いつかまたくる
大災害!



令和元年の台風15号による被害は記憶に新しいと思います。根形公民館も10日間にわたって停電になり、館内の水道やトイレが使用できない状態となり、今後起こりうる自然災害などで何が課題となるのかを身をもって経験しました。

根形公民館としても、さらに地域の皆さんと一緒に「防災」について考えていかなければならないと思っています。そこで、令和4年10月23日(日)午前9時から、根形公民館において「根形地区地域防災訓練」を開催するべく、現在準備を進めています。公民館とともに訓練を実施したい地区、または実施したい内容等(避難訓練、避難所設営、炊き出し、救命処置など)がありましたら、遠慮なく公民館にご相談ください。お待ちしております。

👁 👁 出かけてみよう! 👁 👁

『千葉県・袖ヶ浦市』の農業の現状、ご存じですか?



根形公民館では「地域再発見講座」を開設していますが、今年のテーマは『郷土を見つめ直そう』です。第1回講座は「袖ヶ浦の農業を知ろう」と題し、千葉県・袖ヶ浦市の農業の現状等について、袖ヶ浦市農業センターで学びました。

さて、千葉県の米・豆類・イモ類の耕種計は全国3位、野菜・果実・花きの園芸計は全国6位、生乳・豚・鶏卵の畜産計は全国7位です。さらには、主要農産物産出額は、北海道、鹿児島県、茨城県に次いで全国第4位です。種類別にみると大根・サヤインゲン・マッシュルーム・かぶ・日本なし・みつば・春菊は、全国1位です(令和2年調査より)。

袖ヶ浦市を見てみると、市町村別農業算出額は米が県内18位、野菜が県内20位、畜産11位で、農業全般が県内16位です(令和元年調査より)。また、中川地区の水田地帯を中心にインゲンやトウモロコシ、レタス栽培が盛んです。畑地帯については、落花生・イモ類・大根等を中心に各種野菜の生産が盛んで、首都圏への生鮮野菜供給基地の役目も担っており、特に大根・レタスは国の野菜指定産地となっています。

昨今の農業を取り巻く情勢は、農家の高齢化や農業後継者不足による耕作放棄地の増加、経済のグローバル化による国内外の競争激化など、課題も山積しています。農業の意義や役割、農地・農村地域の持つ多面的機能を維持しつつ、農業が将来にわたって収益性のある農業として、持続発展していくことを切に望んでいます。

鎌倉街道ものがたり (2)―鎌倉街道がいっぱい―

郷土博物館 井口 崇

西

上総のあちこちに鎌倉街道があるのはどうしてなのだろうか。

今回は、鎌倉街道として伝承されている複数のルートを紹介し、その謎に迫りたいのだが、まず、鎌倉街道とはどのようなものなのかを確認しておこう。

鎌倉街道とは、①鎌倉と各地を結び、軍事・物資輸送・通信等のために整備された道。②東日本各地にその名をとどめ、街道には市や宿が設けられていた。③歴史書『吾妻鏡』には「鎌倉往還」とある。④鎌倉街道の呼称は、江戸時代に成った『新編武蔵国風土記稿』や『新編相模国風土記稿』にみられるもので、鎌倉時代からの呼称ではない。ということになる。

袖

ヶ浦周辺の鎌倉街道といわれている道路は、前回紹介した幹線ルート①の他、海岸部にも②が、内陸部にも複数のルート③/④/⑤/⑥が存在し、その多くは今なお生活道路として利用されているという特徴がある。それらのルート沿線には、鎌倉街道地名、源氏が守護神とした八幡神社、頼朝伝説が色濃く分布している。幹線ルート①では現道下から路面幅3m程の道路跡が発見されている。また、野田地区に「鎌倉街道」、川原井地区に「鎌倉通」地名がある。海岸部のルート②は、蔵波や久保田といった小河川の河口にできた湊と湊を繋ぎ、北東の椎津湊、南西では奈良輪湊→木更津湊にも通じるもので、戦国時代には湊を見下ろす丘陵上に蔵波城・久保田城が築かれた。近世には江戸道(房総往還)となり、今に至っている。ルート③は、蔵波→飯富を結ぶもので、飯富に「市場」「白幡」地名がある。このルートは古東海道を踏襲するものと考えられている。ルート④は市原市椎津→大曾根→木更津市望陀を経て高倉観音・高蔵寺に至るもので、ルート①との交差点に建つ道標の銘文「北 ちばみち 南 たかくら道」が示す通り、源頼朝発願とされる坂東三十三観音札所を結ぶ巡礼の道でもある。また、このルートは、古代の望陀郡衙(望陀郡の役所)推定地に接するため、古代道路の可能性もある。ルート⑤は、市原市姉崎→上泉→野里→阿部を経て木更津市矢那方面に続くもの。上泉の愛宕神社脇に残る旧道は、斜面に向かって

一直線に切り通すという建設方法をとっているので、やはり古代道路の可能性が高い。ルート⑥は、幹線ルート上の御所覧塚付近から南下して高谷→木更津市真理→君津市小櫃方面に向かう、久留里中往還とよばれる道路である。この道は幅も狭く直線的とは言えないが、川原井地先に源頼朝軍勢が万騎に達した事に因むと伝わる「馬ノ坂(マンザカ)=万騎坂」がある。



明治前期の迅速測図に見える古道

ここまで紹介したルート以外にも幹線ルート①から分かれ、東京湾岸の物流拠点となった蔵波や久保田、椎津の各湊に続く枝道があり、鎌倉街道であると伝わるものがある。それらの道は市境・大字境等となっていて、古い時代の道路の特徴を示している。

古

東海道が通る袖ヶ浦周辺地域は、古代以来、海上交通を含め交通の要衝であり続けた。その動脈としての道路は、安房⇄上総⇄下総の房総三国を結ぶもので、大掴みには北東⇄南西方向に軸をとる。源頼朝の軍勢が通過したのもこれらの道であろう。また、在地領主や武士等は湾岸地域と内陸部を結ぶ道の整備とあわせて古代から続く道も再整備し、「いざ!鎌倉」の事態に備えたはずだ。そして江戸時代における街道の整備、巡礼などの旅ブームを経て、ノスタルジックな鎌倉街道への意識が受け継がれてきた。その証が「鎌倉街道がいっぱい」の現象のだろうと思うのだが、いかがであろうか。(次号へつづく)